

第2学年 社会科学習指導案

日 時 令和6年12月13日(金) 5校時
場 所 羅臼町立知床未来中学校 第2学年教室
生 徒 第2学年(男子21名, 女子16名)
指 導 者 渡邊 仁史

1. 単元名「明治維新」

2. 単元について

(1) 教材観

本単元は指導要領では以下のように内容を示している。

指導要領より

(5) 近代の日本と世界

- ア 欧米諸国における市民革命や産業革命, アジア諸国の動きなどを通して, 欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解させる。
- イ 開国とその影響, 富国強兵・殖産興業政策, 文明開化などを通して, 新政府による改革の特色を考えさせ, 明治維新によって近代国家の基礎が整えられて, 人々の生活が大きく変化したことを理解させる。

ここでは生徒への学習への動機付けを図り見通しを促しつつ「工業化の進展」「政治や社会の変化」「明治政府の諸改革の目的」「議会政治や外交の展開」などに着目し「なぜ」という課題(問い)を設定することで社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、その課題について、多面的・多角的に考察・表現できるようにすることとされている。その際の歴史的な見方・考え方とは、「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」であり、特に北方領土問題についてはここで取り扱う「領土確定の条約と経緯」から「戦争末期の不法占拠」、「北方領土返還運動」、「ウクライナ情勢によるビザなし渡航の中止」など歴史的な経緯が続いている。このことから、当時の日本政府の置かれた立場を考えるだけでなく、戦後から現在に至る政府の考え方を理解することを通して「今につながる問題」の起点として領土をめぐる交渉を捉えることを指導の柱にした。

(2) 生徒の実態

まず、8月に実施した「北海道ふるさと教育アンケート」の結果は以下のとおりである。

		質問1 住んでいる地域の 歴史や自然への 関心		質問2 北方領土について もっとしりたいか		質問3 北海道や自分の 住んでいる地域 に誇りや愛情を 持っていますか		質問4 住んでいる地域の 行事に参加し ていますか		質問5 ICTを使うのは 勉強の役に立つ と思いますか		質問6 自分で課題を立て てて情報を集め 整理して発表し ていますか	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
選択肢	ア	6	17%	4	11%	13	37%	9	26%	24	69%	9	26%
	イ	14	40%	11	31%	12	34%	19	54%	7	20%	19	54%
	ウ	9	26%	14	40%	10	29%	5	14%	4	11%	7	20%
	エ	6	17%	6	17%	0	0%	2	6%	0	0%	0	0%

ア：当てはまる イ：どちらかといえばあてはまる ウ：どちらかというにあてはまらない
エ：当てはまらない

地域への関心などに関わる、質問１・２では後ろ向きな回答が見られる。しかし、地域への愛着や行事に参加することでは前向きな回答が見られる。実際に地域の行事に積極的に参加している様子もよく見られる。また、ICTの活用についても前向きな回答が多く見られ効果を実感していることがうかがえるため、授業でも積極的にICTを使っていく。

（３）指導観

羅臼町では、小学校において「北方少年少女塾」の事業を活用した北方領土学習に取り組んでいる。また、元島民の方による講話を経験していることもあり、北方領土についての基礎的な知識と関心を有している。しかし、本年度に行なったアンケートの結果からは自分たちで調べたいという結果が全体の５割程度という実態が見られる。そのため、本単元においてはロシアとの間に締結された領土についての条約とその内容を確認すること、サンフランシスコ平和条約にロシアが調印していないことがもたらした結果について戦後の日本にどのような影響を与えたのかを元島民２世である鈴木日出夫氏の講話をもとに考察させるとともに、北方領土についての関心を高めていきたい。その上で明治時代の条約の締結方法とその内容を理解させることにより、二国間の領土については条約に基づいて定めるという国際法の考え方を理解させていきたい。

◎単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
・アジア諸国の動きなどを基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したこと、開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮などを基に、明治政府によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。 ・開国とその影響などをもとに、人々の生活が西洋化（文明開化）したこと、西洋の学問・制度・技術が流入した様子を理解している。	・ヨーロッパの工業化の進展と政治や社会の変化に着目し、明治政府の諸改革の目的、議会政治や外交の展開、近代化がもたらした文化への影響、経済の変化の政治への影響などに着目して、事象を相互に関連付けなどして、近代の社会の変化を多面的・多角的に考察し、表現している。	・アジア諸国の動き、北方領土を含む領土確定の動き、江戸幕府の滅亡について、そこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

◎単元の指導計画

時	学習内容	学習目標	知	思	態
1	○新政府の成立	・新政府の方針や諸改革の内容、中央集権国家の体制が確立していったことを理解する。 ・明治維新による社会の変化、特に身分制度の廃止の意義と問題点について考察し、表現する。	○		
2 3	○明治の三大改革	・新政府が行った学制・兵制・税制の改革の内容を理解する。 ・明治維新の三大改革が人々の生活に及ぼした影響について考察し、表現する。		○	
4	○北方領土の現状と条約について	・太平洋戦争末期の北方領土が占領される様子について講話を基に理解する。 ・北方領土についての歴史的経緯を確認し、元島民の方の思いと北方領土問題の現状に関			○

		心を持つ。			
5	○富国強兵と文明開化	・新政府が行った富国強兵・殖産興業政策の内容を理解する。 ・文明開化の風潮について、社会の様子や人々の生活が大きく変化したことを考察し、表現する。	○		
6	○近代的な国際関係 「政府は、中国や朝鮮とどのような関係を結んだのか」	・近代的な国際関係の下で進められた、明治初期の外交政策を理解する。 ・明治初期の外交政策について、岩倉使節・団の目的と帰国後の近代化への影響を考察し、表現する。		○	
7	○国境と領土の確定	・領土の確定について、近代的な国際関係の下で、新政府が行った外交政策を理解する。 ・北海道の開拓と産業の関係、沖縄県成立の過程での中国との関係について考察し、表現する。		○	
8 本時	○領土をめぐる問題の背景	・これまでの学習や元島民の話を聞いて、北方領土問題を解決する為には講和条約が必要だということを理解する。 ・北方領土問題を平和的に解決する為にはどのような内容が適切なのかを考え表現する。		○	
9	○自由民権運動の高まり 「自由民権運動はどのような社会の実現を目指したのか」	・自由民権運動が始まった経緯や、改革への不満から士族の反乱が起こった過程を理解する。 ・憲法草案などの資料から、自由民権運動がどのような社会の実現を求めていたのかを考察し、表現する。		○	
10	○立憲制国家の成立	・政府が主導した憲法の制定過程、大日本帝国憲法の内容の特徴を理解する。 ・議会政治が始まったことの歴史的意義や、現代の政治とのつながりを考察し、表現する。	○		

3.本時案（8／10）

（1）本時の目標

これまでの学習や元島民の話を聞いて、北方領土問題を解決する為には講和条約が必要だということを理解する。

北方領土問題を平和的に解決する為にはどのような内容が適切なのかを考え、表現することができる。

（2）本時の展開

	子どもの学習活動（・）と教師の働きかけ	指導上の留意点（◎）， 評価※支援が必要な児童への手立て
導入 5分	・北方領土の位置を確認する。 ・北方領土は日本固有の領土だということを確認する。	
	北方領土問題を解決する為の条約を考えよう。	
展開 35分	・島民2世の鈴木日出男さんの講和の内容を振り返る。 ・これまでの日本とロシアの国境線と結んできた条約についてタブレットを用いて確認する。 ・日本の主張とロシアの主張を説明する。 ・スプレッドシートを活用し、日本とロシアの北方領土問題を解決する為の条約について考える（個人） ・日本とロシアの北方領土問題を解決する為の条約について話し合う（グループ活動） ・各グループから発表	・ビザなし訪問の写真などを想起させ、現在も北方領土に住んでいる人たちがいることを確認する。 ・ワークシートを使い、条約名と国境線の位置について確認する。 ・個人で考え、どのような条約が良いのかを考える。 ・それぞれ個人で考えた内容を発表しあい、班ごとにまとめる。 ・教員から条約が大切だという価値づけをする。
	なぜ条約が大切なのかについて考える。	

ま と め 1 0 分	・まとめ	・生徒の言葉を用いてまとめを書く。 思 なぜ条約が大切なのかを今の日本政府の見解を踏まえてまとめている。
--	-------------	---